

## 米国金融政策（2021年11月）

### 量的金融緩和の縮小開始を決定

2021年11月4日

### 量的金融緩和は11月半ば以降、順次縮小し、来年6月に終了の見込み

11月2・3日（現地）に開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）では、政策金利であるフェデラル・ファンド・レートの誘導目標レンジを据え置く一方、量的金融緩和である国債とMBS（住宅ローン担保証券）の購入については、今後、減額していく方針を決定しました。

具体的には、これまでFRB（米国連邦準備制度理事会）は国債の保有残高を毎月800億米ドル、MBSの保有残高を同400億米ドル増やしていましたが、11月半ば以降はそれぞれ700億米ドル、350億米ドルとします。その後も1カ月ごとに国債は100億米ドル、MBSは50億米ドルずつ保有残高の積み増し額を縮小していく方針です。その結果、来年6月半ばには量的金融緩和は終了する見込みです。

足元の物価上昇に関して、前回（9月）のFOMC声明文では「一時的要因」を反映して高まっていると記述していましたが、今回の声明文では「一時的と思われる要因」と記述しており、若干ながら持続的な物価上昇への懸念がみられます。

ただ、利上げには引き続き慎重な姿勢が示されたことや、量的金融緩和の縮小決定を含め、全体的には市場参加者の想定通りの内容だったことから、FOMC後の市場の反応は限定的でした。今後はコロナ禍で生じた供給網の混乱や人手不足などが、物価や雇用に与えている影響を見極めていく局面が続きそうです。

#### 米国の政策金利と国債利回り



※FF（フェデラル・ファンド）レートは誘導目標レンジの中心値を表示

（出所）ブルームバーグ

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management